

ほんとうに ありがとうございます。そして、毎日 願っています。

事業開始後、丸7年となっています。ドーナツトークのスタッフさんをはじめ、関係先のみなさん、企業のみなさんのご協力を得て、現在に。そうした中に、この事業に「協力したい！」「かかわりたい！」というお声もいただき、本当に大きな原動力となっています。また、ひとたびかかると、「さらにかかわりたい！」という、“ポジティブなループ(思い)”になる関係者も多いです。この事業がスタートし、高校生を応援することで、かかわる人たちも元気になると感じています。(関連 = ガイドブック 1: P4)

ところで、そういう思いを抱きながらも、さまざまなご事情で、直接かかわる(つながる)ことができない方も、いらっしゃることもわかりました。

そこで、平野区では、何とかして、こうした人たちの期待に応えることができないかと考えていましたが、実際にはなかなか名案がありませんでした。

そんな中、突然ふりかかってきた、コロナ禍の毎日。これまでどおりに、直接、対面でやりとりすることも困難な状況があったりもしました。少し距離をおいたり、リモートやオンラインなど、それぞれみなさんが、工夫を凝らした方法で、向かい合う日々が続いていました。また、社会情勢も、新しい生活様式や、テレワークの普及、通販、宅配の利用など、これまでの慣習を変化させざるを得ない状況もありました。

通販も宅配も、リモート会議も、在宅しながら、また、場所が離れていても、発注や参加が可能です。つまり、遠くにも意志を示せる、参加できる。この仕組みと、ふるさと寄附金の仕組みが頭の中で、リンクし、(振り返ると)簡単なことですが、気がついた時には、喜びが爆発。

これを活用いただくことで、例えば、遠くにお住まいの方をはじめ、学業や就業でご多忙な方、時間の生み出しが困難な方、何より、「平野区の高中生を応援したい」と、思っておられる方々にも、「ご寄附をいただく」ことで、かかわっていただくことが可能になっています。ふるさと納税への寄附により、「ひらの青春生活応援事業」の財源にご協力いただくことで、平野区の高中生を支援いただくことになり、「(自称)サポーター」としても、つながりを感じていただけたら、このうえなく幸いです。

実は、予算面も年々厳しくなる一方で、安定した事業の継続性を考えると、皆様方からの心温かい応援は、かけがえのない強力な支援になります。

なお、高校でのカフェなど、ドーナツトークさんの取り組みも素晴らしい。 各地で高校生支援の取り組みがもっと進むことを願っています。そして、「ひらの青春生活応援事業」は、この平野区役所の誇りとして、ながく続けていく決意です。引き続き、ご協力よろしく申し上げます。